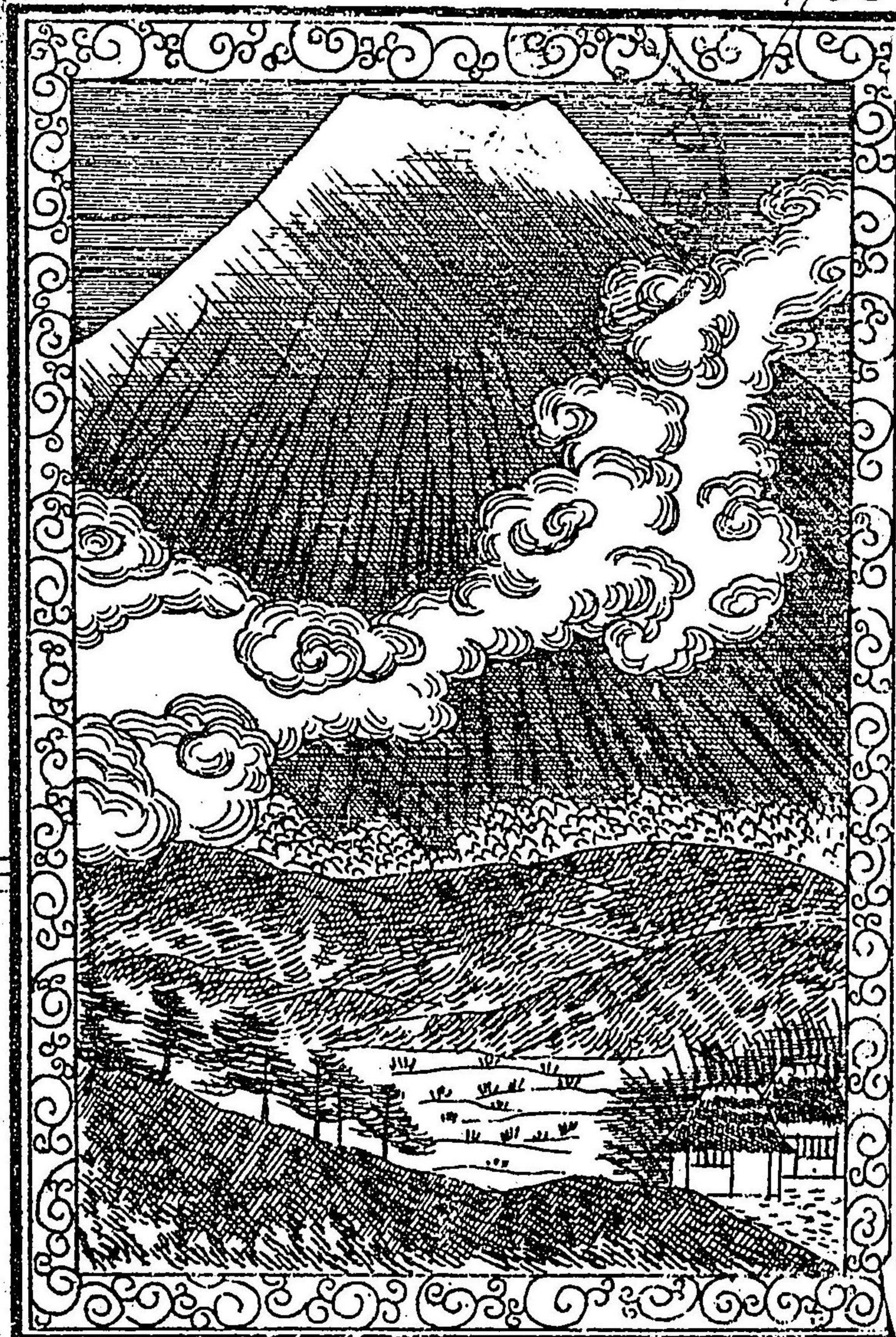


特59 938

№17307/22



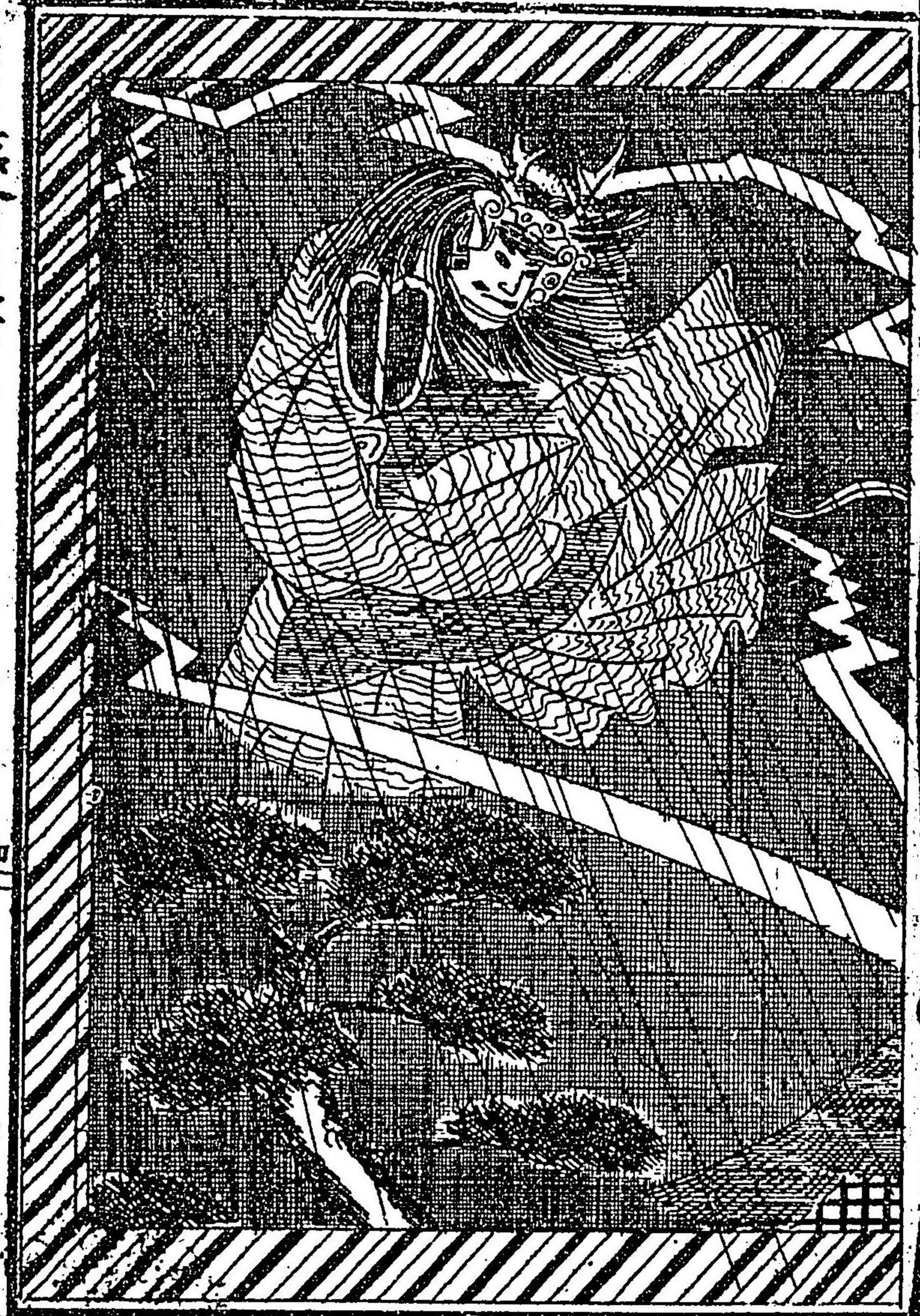
慶安堂記 全

競争屋梓

 A vertical title slip with a decorative border. The main text is '慶安堂記' (Keian-do Ki) in large, bold characters, with '全' (All) below it. To the right, there is a smaller vertical text '競争屋梓' (Keisōya Sui). The slip is flanked by decorative elements, including a small figure holding a scroll on the right side. The background of the slip features a pattern of clouds.



黑衣橫  
巨劍初  
髮壞雙  
眸

















鷹 安



十人たり清光寺へ  
集り此度大阪の  
軍の勝敗いふも  
ちんと噂のくち  
一人り言へハ  
假令関東方  
大軍を以て  
攻給ふとも  
大阪ハ日本  
の名城  
り其上七  
万余人住り  
且貞田幸村

百姓共  
けれハ  
の勝  
とま



高松羊平

富士太郎

舌を  
巻いて  
太郎を  
恐れり  
て富士太郎ハ高  
松羊兵衛と懇い  
と結び大岡の御  
系圖の幸素性  
をくろく用我も紺屋  
の俵もれと天下の主とある  
回数ものにも非じと心に思ひ  
を起へたる然るに此年の冬  
父治右衛門ハと重き病より

二





一、高木太郎と和近  
二、近江相系  
三、一巻の巻  
四、三巻の巻

△修行に出請目を越  
りたしとて名を由井  
民部之介橋の正雪  
改め清兵衛より來太  
郎國光の陣刀を賜り  
總て永年の養育を謝  
し此家を立出けり  
此時正雪十七才あり  
先河内國壺井八幡宮  
へ參詣り夫より伊  
賀と大和の間の名張  
といふ野を過りける  
其日も巳未の刻



●ウー富士太郎  
ハ母を失ひし  
和尚ハ父の遺  
言もあれハ一七日も  
立在ハ法着とせん  
いひしとて清兵衛と  
あり狂氣とあり  
親族も 関ヶ原清  
兵衛といふ者の家は顔  
けられ五十年の間と  
あり居し由き清兵衛  
くさり我大いあれハ武者

東の山の上より一  
陳の槍と見入る  
草木を切る音を  
危來獸のぞ  
見る其大六  
尺余り  
頭の毛ハ  
長く  
両眼  
鏡



日本六十余州子國千  
首達七境金井良五良



雪の見  
より歌の脊  
中子打撃の  
乃と以て

歌の其の  
百件共

△りくて  
正堂ハ加  
賀の馬子  
至り大  
聖寺の山  
路を七八里も興  
へ分け入る頃目も  
早巳子く流くれば  
足まらせてもき行  
向の方の灯の光り  
見へけ水  
きてハ人  
家有り



正堂

正堂  
正堂  
正堂

此少  
見ハ  
着て  
る  
一斬  
有民部  
之助寄了我  
ハ此者修行之者

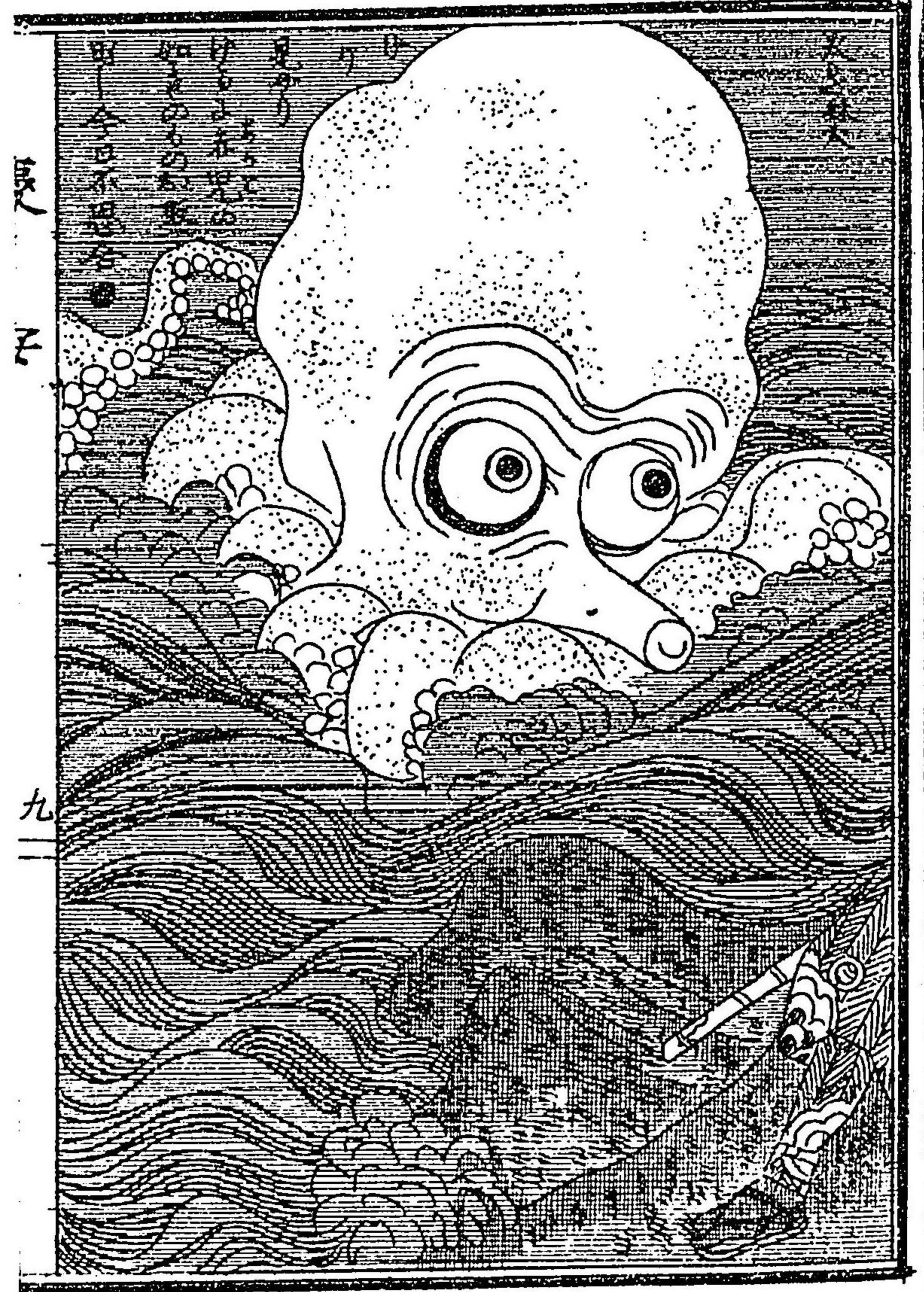


慶安

ある日、日暮の光に  
 一夜を明かせる  
 といふに、女由來り見苦  
 中、此方へ入  
 正雪太喜春  
 ひ用意米  
 を取出し  
 之を食す  
 子入るまの  
 しきりにて



子て結核の  
 多く是をり  
 りせと、彼赤  
 兎を犬まあり  
 刃物にて切  
 打寄り喰  
 子正雪ハ  
 いとぶ  
 山  
 賊まで  
 有る  
 と海に味



夏

下

九













一門の人々も礼儀並に致しける  
 門人今も四千余人は及ひける  
 二説合も寛永十七年  
 奥州仙臺白石の城  
 下りて  
 女の歌討  
 あり其後  
 りを尋  
 る今  
 あり  
 五年  
 寛永八年 志賀園七  
 仙臺の老賊片倉十郎



白石石在遊所村  
 の百雄と太郎といふ者  
 り娘二人を連て男を  
 を取て居りし片倉十郎  
 十郎の部下志賀園七  
 女者の通  
 知りて  
 知らず  
 娘の故  
 中

母  
 家  
 入  
 夫  
 娘  
 二  
 娘  
 切  
 木









天を  
裁く  
幸ひ今般  
紀伊大納言  
朝子後  
共々大  
企てん  
義心  
不日参  
認め有竹  
旧国并春

奥村即左

下

下



其作  
正尊  
議  
も  
聞  
會  
多  
成  
計  
行  
聞  
多  
計  
行  
聞  
多  
計  
行

下

下





大いそ事試合二十合原其後...  
 慶長元年と成ける...  
 弥八用事あり...  
 う御殿を見送り...  
 攻め入り...  
 と...  
 け...  
 巨...  
 念...  
 け...  
 大...  
 馬...



忠弥ハ  
 見え  
 編  
 脱  
 伏  
 通  
 弥  
 門  
 の  
 と  
 子  
 右  
 十五  
 忠  
 弥  
 の  
 王  
 弥  
 何  
 れ  
 南  
 の  
 浪  
 人  
 の  
 と  
 御  
 子  
 其  
 揚  
 西  
 會  
 忠  
 弥













天久保の町に  
 住む一人の女  
 其の夫は  
 町に居るが  
 其の夫は  
 町に居るが

天久保の町に  
 住む一人の女  
 其の夫は  
 町に居るが  
 其の夫は  
 町に居るが



城番の武官が  
 其の妻を  
 町に居るが  
 其の妻は  
 町に居るが





不傳の女... 又吉田初重... 大将と... 有馬... 提督... 一... せん... 何の使... 兩人... の様子...



谷川... 半九郎... 和... 大...

教来り... 時二... 階の上... 長谷川... 千九郎... 即ち... 殿... 十... 之... 相... 非...

長谷川千九郎  
 十九



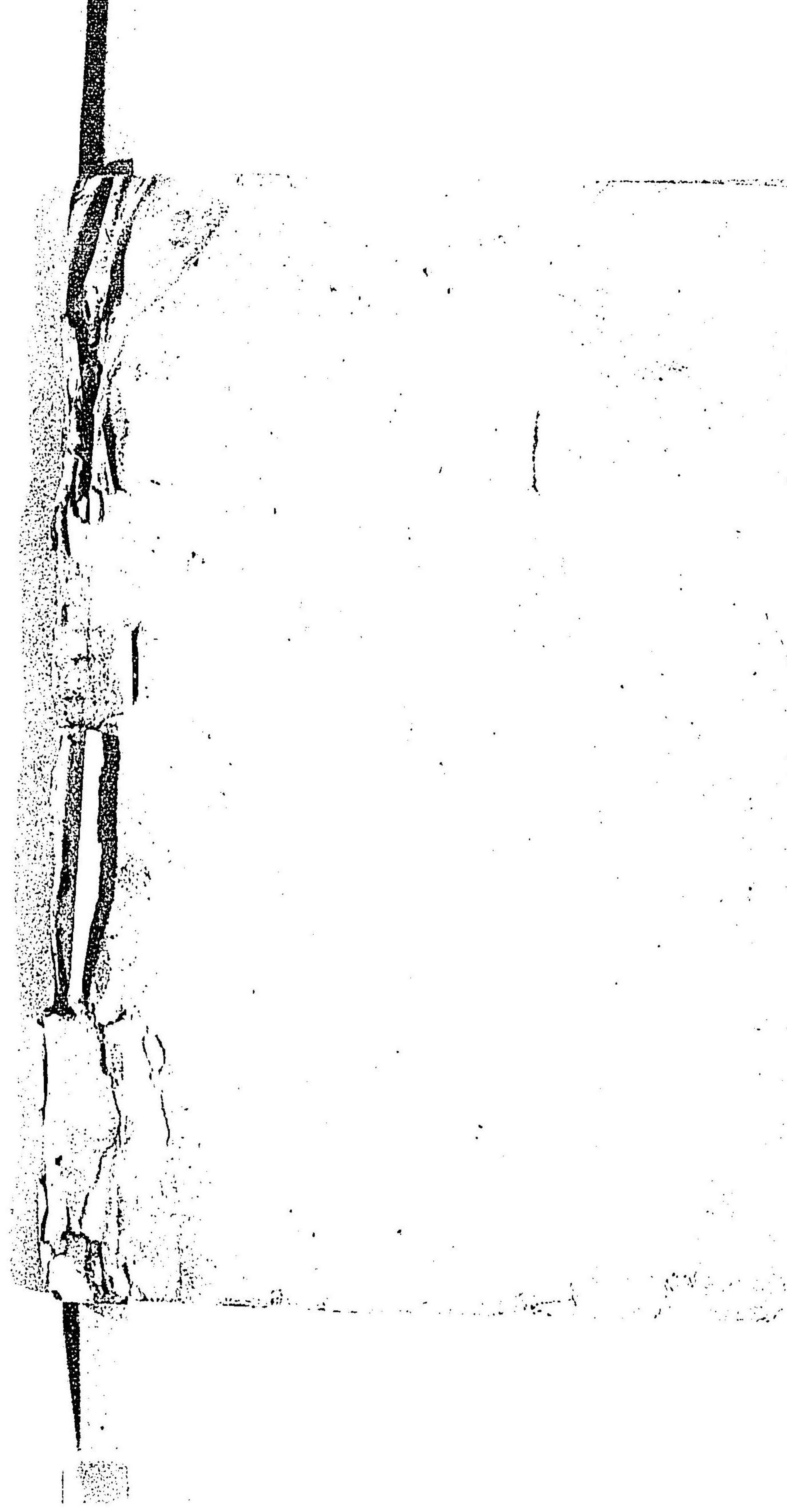


明治二十年四月廿五日  
 大坂市本町  
 金井半兵衛  
 印  
 大坂市本町  
 金井半兵衛  
 印  
 大坂市本町  
 金井半兵衛  
 印



西條園。情。つ。大坂御  
 殿。其。代。引渡  
 へ。又。金井半  
 兵衛。大坂。天王寺の  
 門前。て。切腹。たり  
 と。干。其。後。酒。井。證  
 人。半。兵。衛。一。波  
 大坂市本町  
 金井半兵衛  
 印







特59

938

092028-001-3

特59-938

[ 絵本 ]

駸々堂

M22

DBP-0866





